

根源実家

六五  
六冊  
通

13  
3050  
3





特 13  
3050  
3

嘉永七年甲寅孟春新刊目錄

根源實紫

自五編至八編  
當寅正月發兌

梅蝶樓國自画

五編ハ法皇花山と出尊山と遷らせよ義懷惟成二僧の上よつき哀二致一きり又おとし  
設めりあり保輔謀計を明して嚴久を殺す頼光土蜘蛛退治女四天王の事 六編ハ土蜘蛛  
河原晒丸保輔保昌子とて威すれり此の事ハ式部卿の傳子あり野州子の節義  
惟親ハ此の官の密令ハ七編ハ少將のせりある意惟親越後ハ此の式部卿の宣孝子嫁す  
此編ハ婦人の教よあり條多一八編ハ法皇者ハ傳らせり内大臣伊周公誤てりをさち流  
罪のよし法皇の一期ハ編ヨリ終る 九編ハ茨木童子又垂童九の傳を結ひそめて  
御堂殿道長ハ此の式部卿の別れて官仕の事 十編よりハ東門院入内子とて  
宮城野芳宣 花兄弟陸奥名所 右同作 國芳画  
信夫里山吹 草紙團扇問屋 佐野屋喜兵衛

七組入子枕 七編同 作 地本錦繪  
滿尾同 画 草紙團扇問屋  
佐野屋喜兵衛

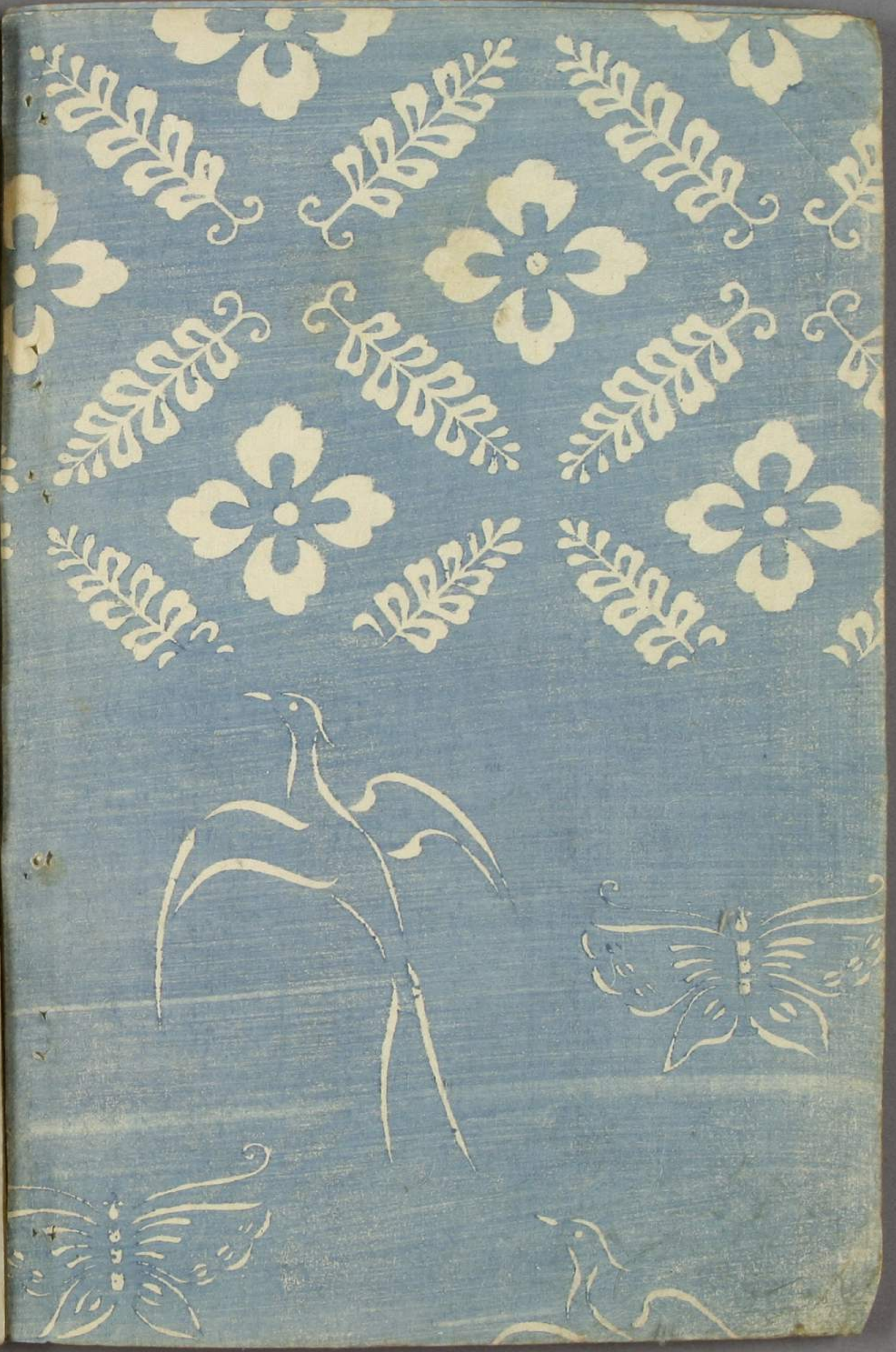




仙果作  
國貞畫



根原善武  
七  
五編  
仙果作  
國貞畫







笠亭仙果作

標蝶樓國貞画

佐野屋文彦

甲寅新刊紫式部一  
話根源實此五編



根源實此

六編

甲寅新販

笠亭

仙果作

梅蝶

樓國貞

標蝶

佐野屋

文彦





國貞画

仙果作

外題曲多同画

五編下



根源  
美  
如  
夜  
集

喜鶴堂  
新歌

五編上





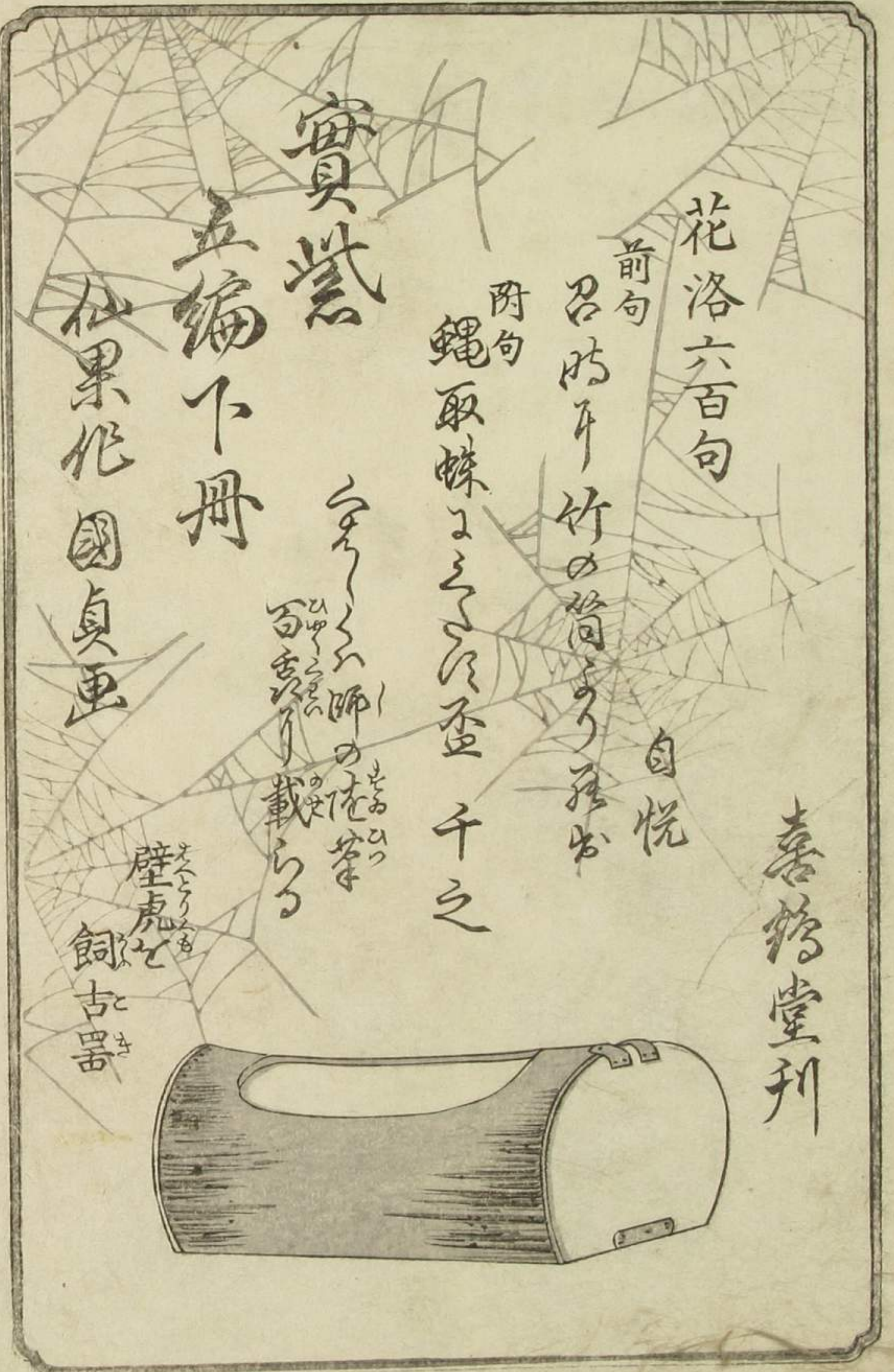
實業五編 藏人の取巻原の道包に  
 本文ありあり ぬきおのむせむれたかうのま  
 東宮のむすぶあり 劍奎のみまともうけ  
 まわらせむとありんか ちりるる包あそんの  
 ちりるる左大臣包家公の東宮の御祖父  
 るれがゆんか ちりるるま  
 帝位とまきまき  
 されがゆんか  
 天の下に一日のま  
 まるちその日東宮の  
 内裏ゆんか  
 みまのま  
 ままのま  
 ちりるるのま  
 ちりるるのま



笠亭 仙果編述

左大臣 包家公

東宮の御祖父  
 後白河院の  
 天皇とまき  
 ちりるるのま  
 ちりるるのま  
 ちりるるのま  
 ちりるるのま



花洛六百句

前句

召時千竹の筒より花書

自悦

附句 蠅取蝶よととる盃千之

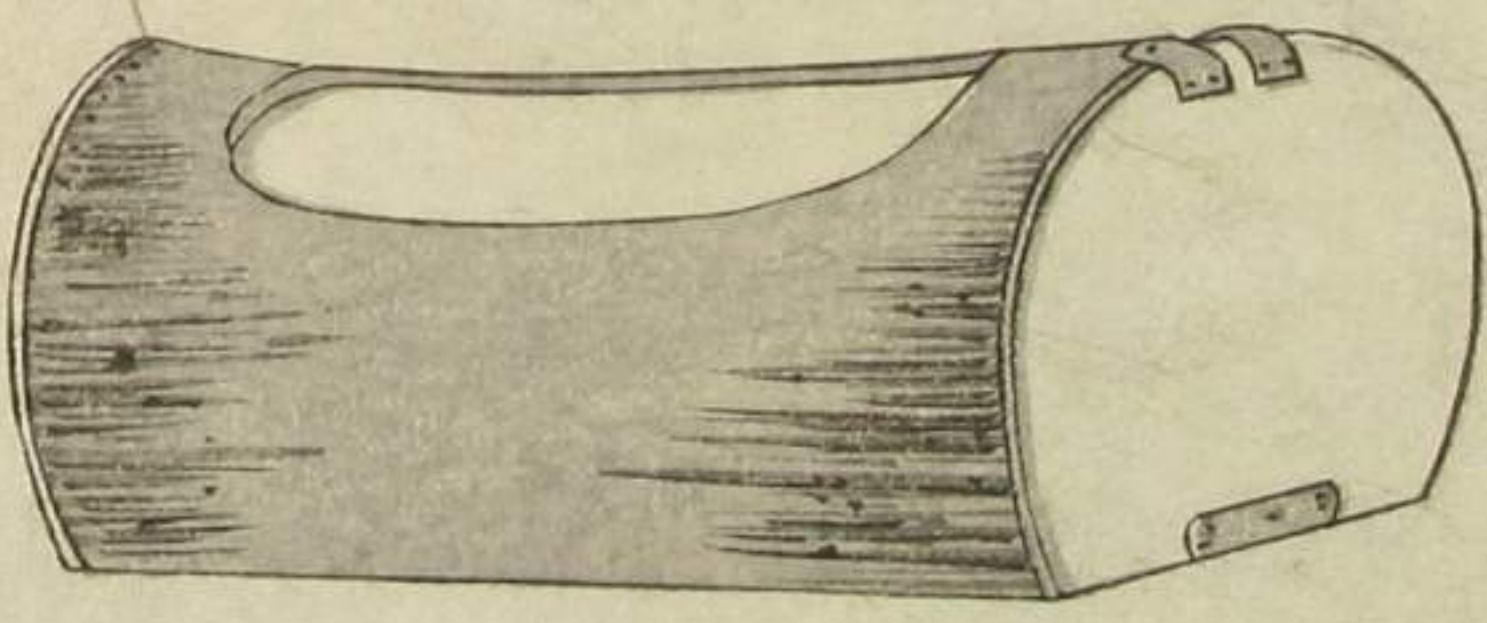
實業

五編下冊

仙果化國貞画

ちりるるのま  
 ちりるるのま  
 ちりるるのま  
 ちりるるのま

壁虎と  
 飼古器



喜鶴堂刊





○ 宣孝室 野洲子

目川侍婢



源次 豈 販藥 香鞭筆 火戲

箕田源次綱 後漢 苗字





古  
下  
曲  
五  
の  
圖



○此系式部  
花の  
を  
む  
凶賊 茨木童子 隠  
羅城門樓上

家集  
きよはらのあき  
あきくわいの  
しんあきあき  
せんとく

はのあきあきの  
あきあきのあき  
あきあきのあき  
あきあきのあき

仕  
女  
董

実  
洲  
并  
五















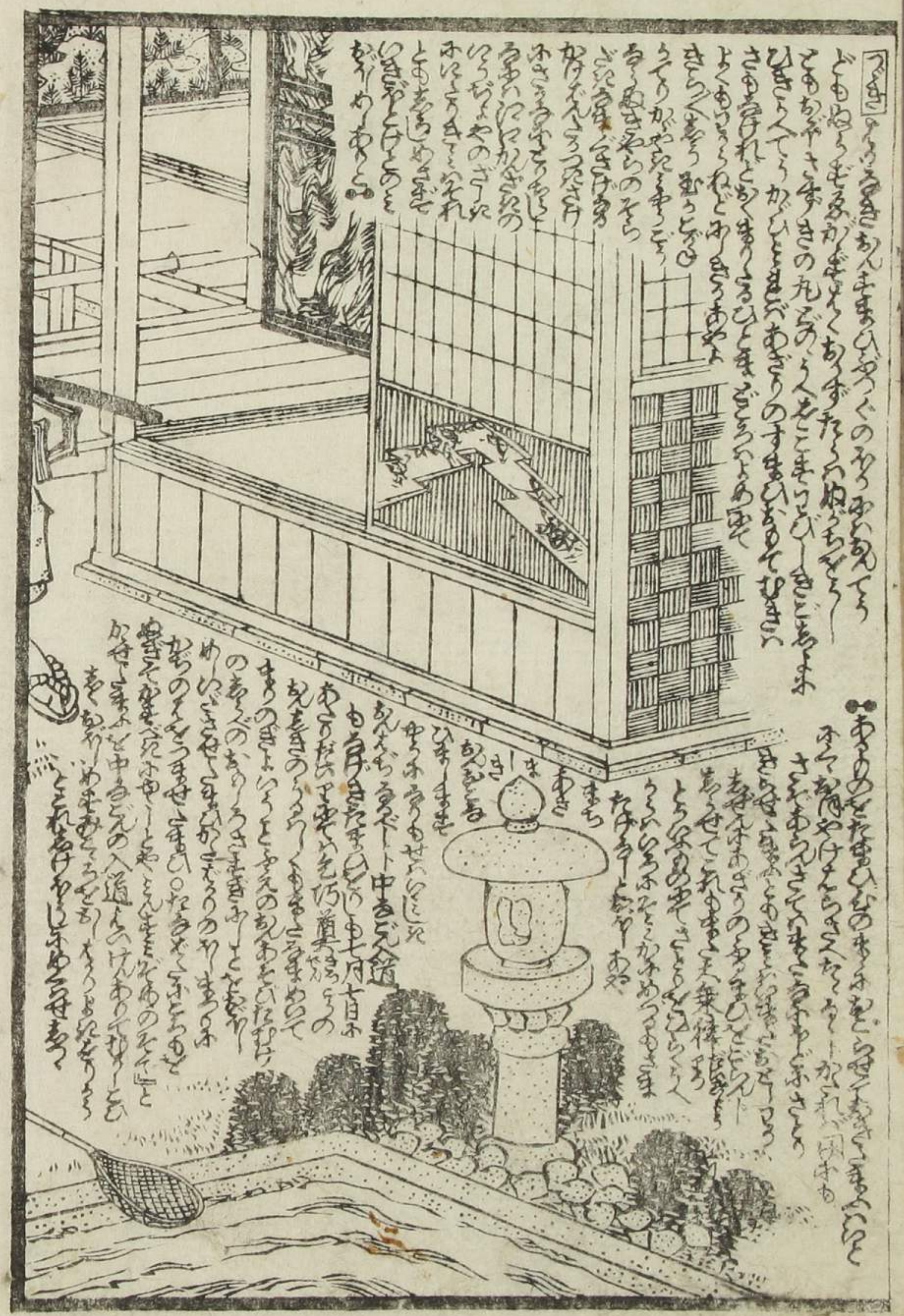


美濃五



美濃五





























































根源

實  
紫

六編下

喜鶴  
文庫



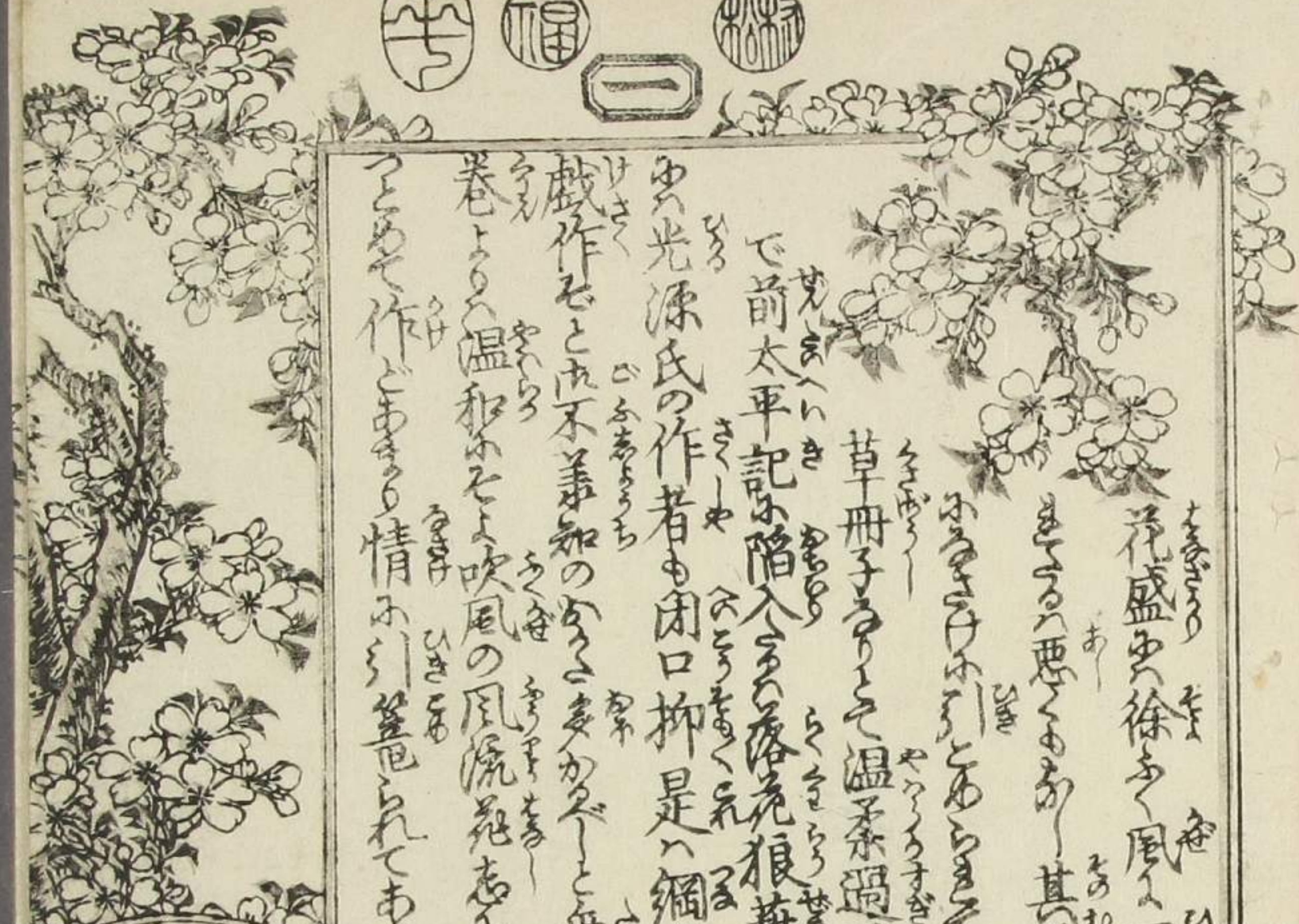
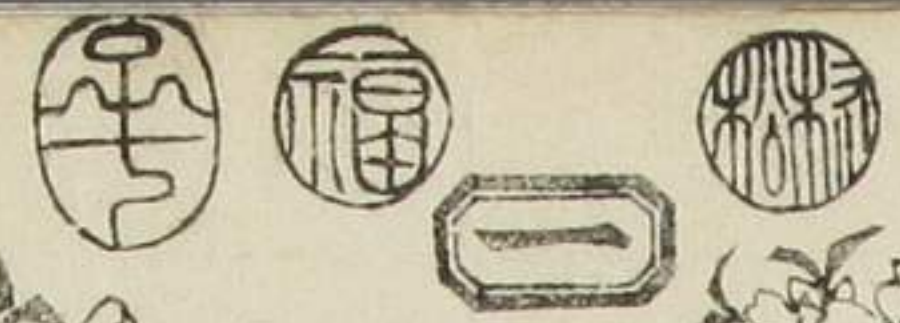
仙果

真画

外題曲三三國志

上編六





花盛史徐多風一葩二葩敷の愛相相思中の小友目小乳ら  
 草冊子より温茶過ての事多の巾と一寸保輔を補点る茶が顔  
 で前太平記の陥入る落荒狼藉扱るさるか午斬乍歐清和源の威勢  
 史光源氏の作者も因口抑是へ綱ごさるへ鬼とひらく女と石母て人を打懸信  
 戲作と成不義知のさるさあかると無一袴を端折上て緋袴小五夜此六帙目の下  
 巻よりの温和の吹風の風流花志小実空の實のゆ(ま)も馬換様(た)上品やと  
 こと作とまきり情ふり蓋られてもや化粧のさるさる

嘉永七年  
 甲寅新春

笠亭仙果



おまへさむ  
 みむし  
 さうさ  
 方編  
 下共  
 まうた  
 仙果化  
 園貞画

わちりち

市の屋  
 本亭

きの  
 けり









世子内  
 親王家  
 少将

曲立園忠

半  
 半



男童  
 皆岸  
 店

白井  
 牧庄  
 ね所をありと  
 みる  
 みる  
 みる

齋院次官  
 藤原惟規

































仙果作國貞画

仙果作









Text in the upper left corner of the illustration, written in a vertical column.

Text in the middle left of the illustration, written in a vertical column.

Text in the lower left of the illustration, written in a vertical column.

Text in the lower right of the illustration, written in a vertical column.



Text in the upper left corner of the illustration, written in a vertical column.

Text in the middle left of the illustration, written in a vertical column.

Text in the lower left of the illustration, written in a vertical column.

Text in the lower right of the illustration, written in a vertical column.





Handwritten text in the upper left corner of the illustration area.

Handwritten text in the middle left area, adjacent to the woman.

Handwritten text in the lower left corner of the illustration area.

Handwritten text in the upper right area, above the pot.

Handwritten text in the middle right area, to the right of the woman.

Handwritten text in the lower right area, below the pot.



Handwritten text in the upper left area of the illustration.

Handwritten text in the lower left area, surrounding the seated woman.

Vertical handwritten text on the left margin of the page.

Small vertical mark or character on the left margin.















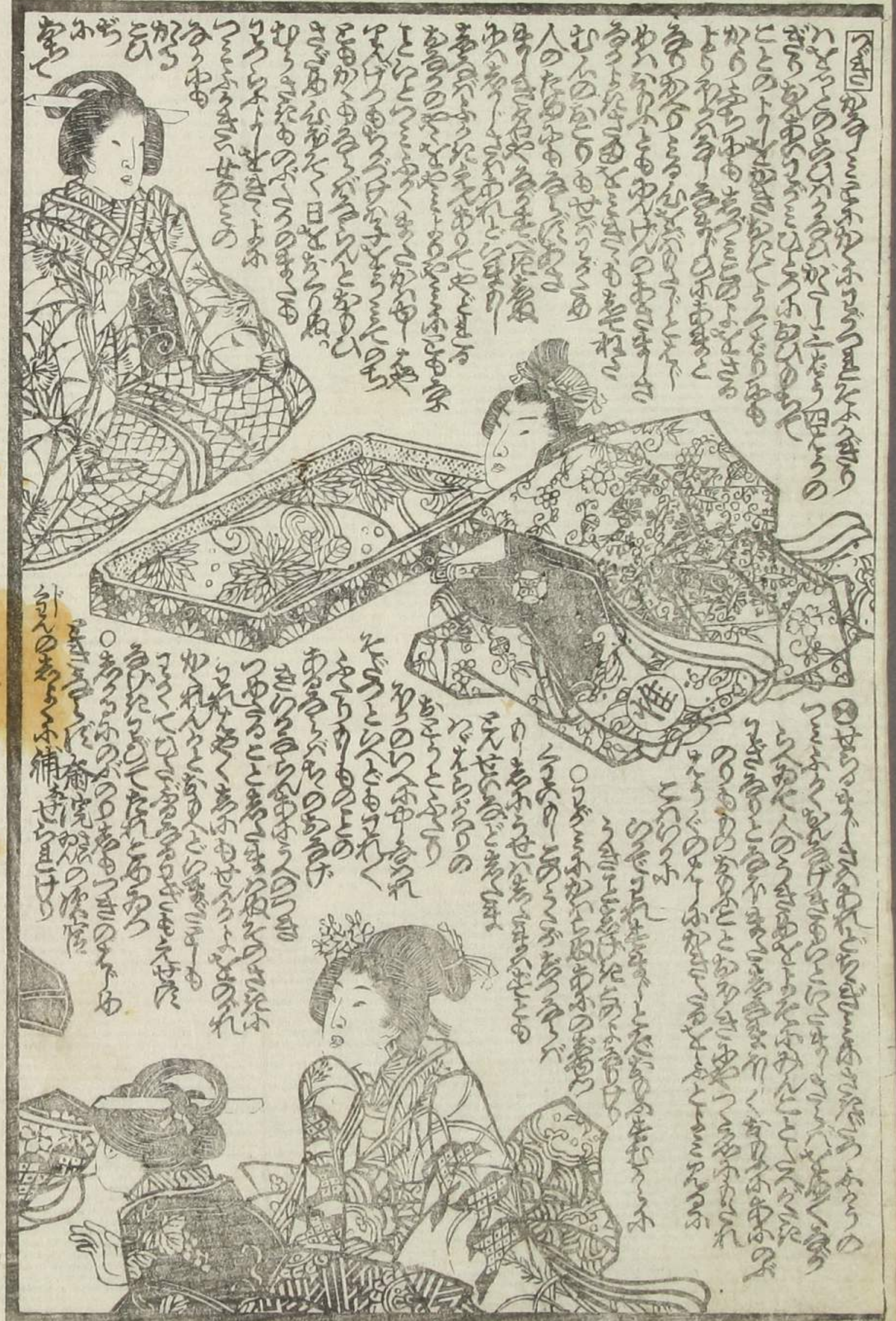


花の香を手に取りて  
春の風を身にまかせ  
心ゆくまで遊ばせ  
給へ

花の香を手に取りて  
春の風を身にまかせ  
心ゆくまで遊ばせ  
給へ

花の香を手に取りて  
春の風を身にまかせ  
心ゆくまで遊ばせ  
給へ

花の香を手に取りて  
春の風を身にまかせ  
心ゆくまで遊ばせ  
給へ



花の香を手に取りて  
春の風を身にまかせ  
心ゆくまで遊ばせ  
給へ

花の香を手に取りて  
春の風を身にまかせ  
心ゆくまで遊ばせ  
給へ

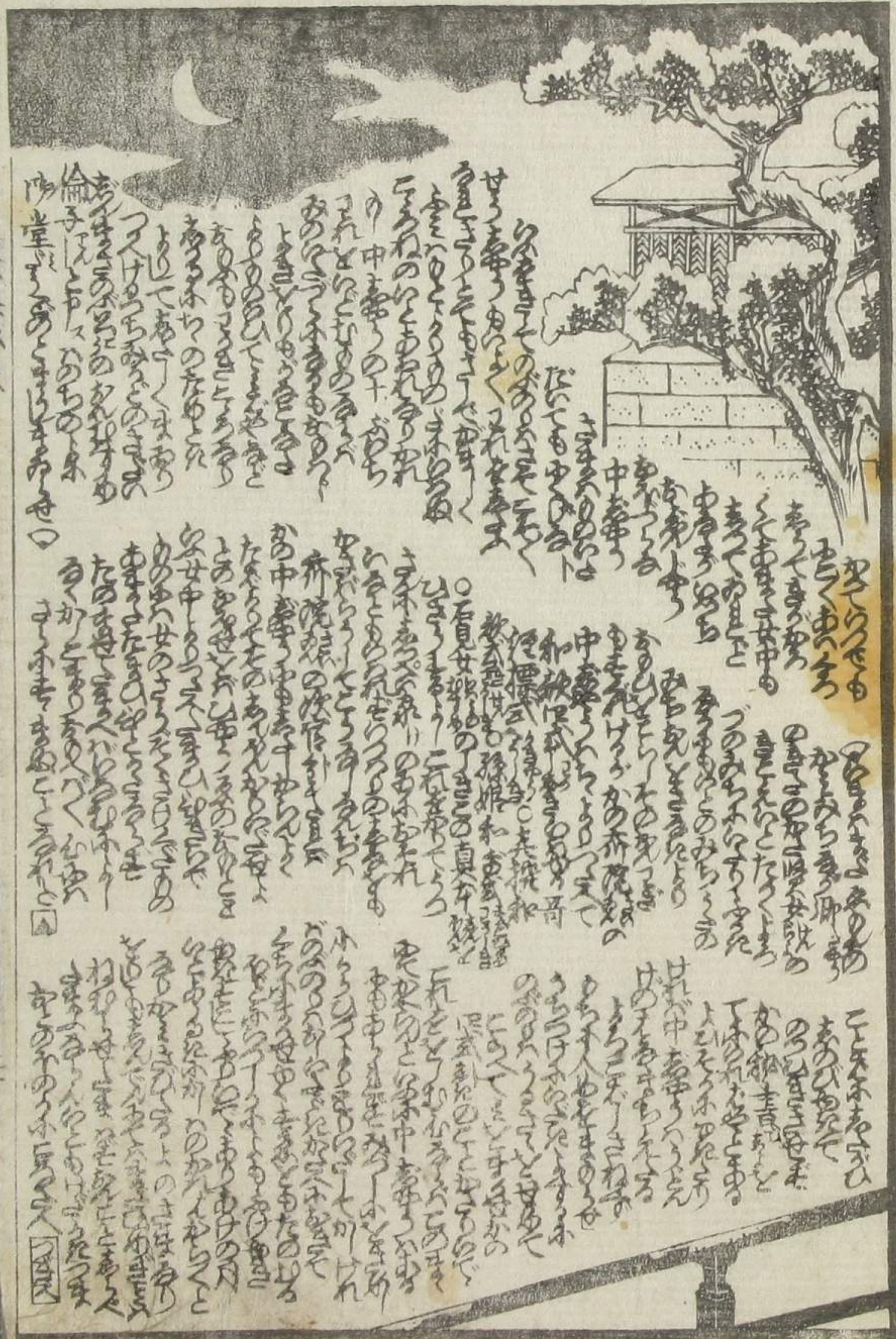
花の香を手に取りて  
春の風を身にまかせ  
心ゆくまで遊ばせ  
給へ

花の香を手に取りて  
春の風を身にまかせ  
心ゆくまで遊ばせ  
給へ















中暑和中飲霍亂暑あつ

加正散六折對四季の折

法系友りは系友のめ

一粒丸大人の見

御白体御白体

即ぬ即ぬ

御量物御量物 煉香煉香 不淨除凌不淨除凌

火火 鑪鑪 燭燭

雷除神丹雷除神丹

神丹神丹 神神 強強

旅行懐中御用意未貯藥旅行懐中御用意未貯藥

白玉白玉

御香木御香木 古伽羅古伽羅 新伽羅新伽羅 右六国七種組合代金壹合より奉り上其

金香金香

右六国七種組合代金壹合より奉り上其

嘉永七年甲寅年孟春新鐫目錄

娘庭訓金鶏山東庵京山作

繪圖見西行京山老人作

総次郎琴聲美人録雄齋國輝画

教訓乳母草紙西馬譯文

關太郎鈴鹿故語雄齋國輝画

衣伊達奥州合戰西馬譯文

潤祈小町墨染櫻梅蝶樓國貞画

井佐野屋喜兵衛板東都地本繪草紙團扇問屋



